

平成24年度
学生募集要項
〔推薦入試〕



弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

目 次

①	“世界に発信し，地域と共に創造する弘前大学” 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
②	推薦入試募集人員	6
③	出願期間	7
④	出願書類等の提出先	7
⑤	出願書類等	7
⑥	出願上の注意	8
⑦	学部ごとの出願要件・選抜方法等	10
	I. 人文学部	10
	II. 教育学部	12
	III. 医学部保健学科	16
	IV. 理工学部	19
	V. 農学生命科学部	23
	VI. 採点・評価基準，合否判定基準	25
⑧	合格者の発表	27
⑨	入学手続	27
⑩	入学料及び授業料の免除・徴収猶予を希望される方へのお知らせ	29
⑪	学生寮への入寮を希望される方へのお知らせ	30
⑫	合格しなかった場合の取扱い	31
⑬	入試情報の開示	31
⑭	個人情報の取扱いについて	31

●推薦入試日程表

事 項	日 時	
推 薦 I	出願期間	平成23年11月1日(火) から11月7日(月) まで〔午後5時必着〕
	試験実施日	平成23年11月19日(土) 人文学部, 教育学部(※)
		平成23年11月20日(日) 教育学部(※), 理工学部, 農学生命科学部
合格者発表	平成23年11月25日(金) 午後2時(予定)	
推 薦 II	出願期間	平成23年12月1日(木) から12月6日(火) まで〔午後5時必着〕
	試験実施日	平成23年12月17日(土) 医学部保健学科, 理工学部
	合格者発表	平成24年2月5日(日) 午前10時(予定)
入学手続日 (推薦I・II共通)	平成24年2月13日(月) 午前9時～午後4時	

(※) 教育学部では，課程により試験実施日が異なります。詳細については，p15をご覧ください。

平成24年度弘前大学推薦入学募集要項の変更点について

前年度からの主な変更点をお知らせします。

なお、出願にあたっては、各学部の出願要件・選抜方法等で詳細を確認してください。

◆教育学部

1. 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 音楽専修の推薦入試Ⅰの募集人員を変更した。
音楽専修（推薦入試Ⅰ 1→2）

◆理工学部

1. 物理科学科の推薦入試において推薦入試Ⅱを取りやめ、推薦入試Ⅰの募集人員を変更した。
推薦入試Ⅰ 6→8 推薦入試Ⅱ 2→0（取りやめ）
2. 物質創成化学科の推薦入試Ⅱにおいて募集人員を変更した。
推薦入試Ⅱ 3→2
3. 地球環境学科の推薦入試Ⅱにおいて募集人員を変更した。
推薦入試Ⅱ 4→3
4. 知能機械工学科の推薦入試Ⅰにおいて募集人員を変更した。
推薦入試Ⅰ 10→8
5. 推薦入試Ⅰにおける「出願要件」の「特定教科の評定平均値等」の理科について変更した。
①物理科学科 「数学及び理科（物理又は化学のうち1科目）の評定がともに4.0以上」→
「数学及び理科（物理）の評定がともに4.0以上」

②知能機械工学科

工業に関する学科 「数学，理科，外国語がともに4.2以上」→
「数学，理科（物理又は化学のうち1科目），外国語がともに4.2以上」
上記以外の学科 「数学，理科，外国語がともに4.0以上」→
「数学，理科（物理又は化学のうち1科目），外国語がともに4.0以上」

※2「知能機械工学科では「工業に関する学科」から3人以上の合格者を予定しています。」→

※2「知能機械工学科では「高等学校等の工業に関する学科（高等専門学校の学科を含む）」
ら3人以上の合格者を予定しています。」に変更

◆大学入試センター試験の成績利用方法について

平成24年度大学入試センター試験の「地理歴史」，「公民」及び「理科」の得点については、『第1解答科目』の得点を用いることとしたため，以下のとおり変更します。

なお，昨年9月に公表した入学者選抜方法及び実施教科・科目等に記載の大学入試センター試験の成績利用方法も同様に変更します

- 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は，得点の高い教科・科目の成績を用います。



- 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は，得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし，「地歴」，「公民」及び「理科」については，『第1解答科目』の成績を用います。

募集要項中に大学入試センター試験の成績利用方法の記載がある箇所は下記のとおりです。

P18 Ⅲ 医学部保健学科

(6) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合の取り扱い

P22 Ⅳ 理工学部

(5) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合の取り扱い

① “世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学” 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

1. 弘前大学の理念

弘前大学は、教育基本法の本質にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、人類文化に貢献しうる教養識見を備えた人格者の育成をもって目的とする。

2. 弘前大学の教育目標

弘前大学は、自ら課題を探究する能力を有する自立的な社会人と高度の専門的職業人として国内外で先導的に活躍する人材の育成を目標とする。

3. 弘前大学が求める学生像

弘前大学の理念と教育目標に共感する次のような学生を求める。

- (1) 知的好奇心が旺盛で、チャレンジ精神を持つ人
- (2) 自主的・主体的に行動し、実践的能力を持つ人
- (3) 国際社会の発展に貢献する強い意志とリーダーシップを持つ人
- (4) 創造性と応用力に富み、地域社会の活性化に取り組む志を持つ人

4. 各学部のアドミッション・ポリシー

<人文学部>

弘前大学人文学部は、人間の文化や社会に関する有形無形の知的財産を継承し、より豊かに発展させることを理念に掲げています。幅広い教養と専門的知識をあわせ持ち、人間と社会が抱える問題を解決できる人材の育成を目標としています。

本学部の教育は、少人数ゼミナールと多彩な実習を基幹とする「課程制」を特徴としています。人間と社会が抱える問題には、さまざまな学問領域が関係しています。ゼミナールや実習を通して専門的知識を深める一方、多彩な学問領域にも触れることで広い視野から問題をとらえる能力を身につけることができます。

本学部の求める学生は、人間や社会が抱えるさまざまな困難に目を向ける人、自ら考えることの大切さを知る人、自分の考えを伝えるための努力を惜しまない人です。さらに、各課程では、専門性の違いから次のような学生を求めています。

◎人間文化課程

- ・文化財を対象に、人間や社会の多様なあり方を考えたい人
- ・哲学的な探求を通して、「人間とは何か」を考えたい人
- ・文学や歴史などの視点から、日本を含むアジア世界について考えたい人
- ・欧米言語を正確に学び、欧米の歴史や文学について考えたい人

◎現代社会課程

- ・外国語を実践的に使いこなす、国際的な課題について考えたい人
- ・フィールドワークを通して、人間の活動や地域社会について考えたい人
- ・法的素養と思考力を生かし、現代社会の法律・政治問題を考えたい人

◎経済経営課程

- ・経済の歴史や経済学の理論を学び、社会のあるべき姿を考えたい人

- ・経営学・会計学に関する知識にもとづき、企業活動における課題や問題を考えたい人
- ・情報処理や統計学の知識を活用し、社会経済現象を計量的に考えたい人

高等学校で学んでおくべきこと・取得が望ましい資格

どの課程で学ぶとしても、高等学校で学ぶ科目はすべて重要であり、受験科目以外の教科も、十分勉強しておいて欲しいと考えています。ただし、人文学部で学ぶために必要な基礎学力として、特に、国語（現代国語、古文、漢文、国語表現などを広く）、外国語（英語、独語、仏語、中国語、韓国語などのいずれか）、数学、社会（世界史、日本史、地理、現代社会、倫理、政経などを広く）、情報などの科目を、十分勉強してください。

また可能であれば、語学検定資格（実用英語技能検定2級など）の取得にも挑戦してください。

<教育学部>

教育学部では、専門的な知識・技能を習得して、学習者を支援することのできる専門家の養成を目指しています。学校教育教員養成課程・養護教諭養成課程では、児童生徒の学習と健康を支援する学校教員の養成を、生涯教育課程では、児童生徒の学校外での学習及び社会人の学習・文化・スポーツ活動を支援する教育専門職員の養成を行っています。したがって、子どもや社会人の学習活動に強い関心を持ち、学校の教員や生涯学習の支援・指導者などとして働くことを志す、豊かな人間性と確かな学力を兼ね備えた意欲的な学生を求めます。

そこで、大学入試センター試験では「教育プロフェッショナル」を目指すものとして必要な幅広い教科・科目にわたる基礎学力を評価し、一方、個別学力検査では「教育プロフェッショナル」となり得るために重要な各課程・専攻に関する専門的学力や資質を評価します。

各課程・専攻のアドミッション・ポリシーは次のとおりです。

◎学校教育教員養成課程

(学校教育専攻)

学校教育専攻は、教育科学、発達心理、幼児教育の三専修から成り立ち、教育に関わる専門的な分野を学習することによって教科にとらわれない学校教育のスペシャリストを目指します。

学校の教員は、国語や数学などの教科を指導するだけでなく、総合的な学習、道徳、生徒指導、特別活動などの教育活動を担当しています。そのため、教員になるためには教育科学、発達心理、幼児教育などの優れた専門的見識が求められています。学校教育専攻は、主にこうした教育諸科学を中心に学ぶことによって、幼稚園・小学校・中学校・高校など、将来どのような学校の教員になっていくためにも必要な資質を身につけ、深めていくことを目的としています。

大学入学までに、文系・理系に偏らず、幅広く教科・科目を学習しておくことが望まれます。

(教科教育専攻)

教科教育専攻では、自らが所属する「専修」において専門の教科の学習を深めながら、様々な教科にまたがる幅広い教育実践力を持った小学校教員の養成と、専門とする教科についての優れた教育指導力を持った中学校教員の養成を目指します。

そこで、児童生徒の成長に関わることにやりがいと使命を感じ、小学校教員として得意教科を中心にした十分な教育実践力を身につけようとする意欲をもつ人や、中学校教員として専門とする教材に関する研究能力と十分な教育指導力を身につけようとする意欲をも

つ人を求めます。

大学入学までに、小学校教員をめざす人は文系・理系に偏らず、幅広く全教科・科目を学習しておくことが望まれ、また中学校教員を志望する人は、それぞれの専門に関係するより多くの教科・科目を学習しておくことが望まれます。

(特別支援教育専攻)

様々な障害のある児童・生徒に対する教育は、特別支援教育として、学校教育全体の課題となり、ますます重要視されていきます。障害に関し、教育、福祉、心理、病理など、多方面から取り組む意欲をもつ学生を求めます。

◎養護教諭養成課程

専門職としての社会的責任を自覚し、その活動に必要な研究・研修を自ら進んで行うことのできる養護教諭の養成を目指します。そのため、「養護教諭になりたい」という強い意志を持ち、学習・研究意欲が高く、努力を惜しまない人を求めます。すなわち、子どもたちの「健康問題に高い関心」をもっており、子どもたちに「生涯を通して、生命を大切にし、自らの健康を守り高めていける力を育てたい」と願う人です。

養護教諭は、児童生徒、教職員他、様々な人々とコミュニケーションをとりながら、合理的、実践的な科学的思考に基づき、子ども自らが心身の健康問題を解決していけるよう支援していきます。したがって、大学入学までに、幅広い教科・科目を学習しておくことが望まれます。

◎生涯教育課程

人間の学習は一生涯のものであり、学習すべき領域は広範にわたります。本課程では、健康生活、芸術文化、地域生活の分野で生涯学習を支えていこうという意欲をもつ学生を求めます。大学入学までに、それぞれの専攻に関係する多くの教科・科目を学習しておくことが望まれます。

(健康生活専攻)

健康の大切さと生涯にわたる体力の維持の重要性を理解し、今後の社会における人々の健康維持増進活動（定期的な運動・スポーツ実施を含む）に対する関心を持ち、高齢者や障害者をも含んだ多くの人々の健康維持増進のための実践活動を支援する運動・スポーツ技能等を学習する意欲をもつ学生を求めます。

(芸術文化専攻)

人間・社会に対する幅広い関心の上に、芸術、思想、哲学、文学または芸能、文化遺産などに深い興味をもつか、あるいは音楽、美術等に関する技能を有している、積極的な意欲をもつ学生を求めます。

(地域生活専攻)

地域の活性化と地域住民の生活の質の向上に貢献できる実践的な能力をもつ人材を養成するという観点から、生活者の視点での生活環境に関わる諸問題に関心意欲をもつ学生を求めます。

<医学部医学科>

入学者は医学教育に対応し、自ら能力を向上させることが重要です。したがって、以下の資質をもつ人材を求めています。

- (1) 将来医師として医療に貢献したいという明確な目的意識を持っている。
- (2) 何事にも意欲的に取り組むことができる。
- (3) 他人を思いやるやさしさと社会性がある。
- (4) 医学教育を受けるに十分な学力があり、生命現象に対し強い好奇心を持っている。

このためには、理系科目はもちろん文系科目や英語もしっかり履修し、応用力を伴った学

力を身につけてください。

<医学部保健学科>

医学部保健学科では、国民の健康と福祉に貢献できる医療従事者を育成するために、次のような資質を持った人を求めています。

- I. 保健学を学ぶことに対して、しっかりとした目的意識と旺盛な探究心を持っている人
 - II. 人間に対する深い思いやりの心と優れた学習能力を備えている人
 - III. 他人との協力・協調の基に、未解決の課題に創造的に取り組める人
- 各専攻が「高等学校で学んできて欲しい」と考える履修科目等は、次のとおりです。

◎看護学専攻

看護学を学ぶために必要な幅広い基礎学力を備えていること、特に人間理解やコミュニケーション能力にかかわる、国語、英語を意欲的に学んでいることが望ましい。

◎放射線技術科学専攻

理科については、全般的な基礎知識を習得していることが望ましい。

◎検査技術科学専攻

理科の基礎知識を習得していることが望ましい。

◎理学療法学専攻

理科については、全般的な基礎知識を習得していることが望ましい。

◎作業療法学専攻

人間に対する豊かな興味・関心を有していることが望ましい。また、生体の理解や作業分析に必要な生物、物理等の理科の基礎知識を習得していることが望ましい。

<理工学部>

興味を持つこと、「なぜだろう」と思う心、これが科学の原点です。その対象は幅広く、各学科では次のような学生を求めます。

◎数理科学科

高校の教科全般の基礎学力をもち、高校数学については概念や法則を良く理解しているうえに推論と計算の確かな力をもっている。しかも数理科学へ強い興味を抱き探究心が盛んである。そして豊かな数学的知識と自在な数理的応用力をもって世に出ようと欲している人

◎物理科学科

電子や陽子などの極微粒子のミクロな世界から広大な宇宙の世界までを統一的に支配している自然の基本原理を探求する物理科学の最前線に興味を持ち、および、先端物理学の社会への還元を目指した工学への応用に意欲を持ち、普通高校においては「物理Ⅰ、Ⅱ」、工業高校においては「物理Ⅰ」を履修した人

◎物質創成化学科

本学科で開講される化学系基礎科目を中心としたカリキュラムを体系的に所定の期間に理解・習得するのに必要な、自然系基礎科目（特に化学）の内容を習得し、論理的思考力および文章力を備えている人

◎地球環境学科

自然科学の基礎的な学力を有し、宇宙空間、大気・水圏、地質・岩石、地震・火山などを対象とした地球科学に興味を持ち学習意欲がある人、また、地球科学を通して地球環

境・災害・エネルギー資源などの人類が直面する問題について深く学びたい人

◎**電子情報工学科**

エレクトロニクス、情報、通信、コンピュータ、マルチメディアを融合した新しい技術やシステムの創生と高度情報化社会の推進の基礎となる理数系の科目を履修した人、または総合的な基礎学力を備えた人

◎**知能機械工学科**

医療・福祉や環境・エネルギー、航空宇宙、ロボット、ナノテクノロジーなどの科学技術分野で使用される「知能を持った未来型機械システム」の設計、開発を行う技術者・研究者を目指している人

<**農学生命科学部**>

自然と人間の調和のある発展をはかることが、21世紀における農学ならびに生命科学に課せられた最重要課題です。本学部では、次のような学生を求めています。

1. 農学ならびに生命科学の各分野において、基礎から応用までの幅広い学問を身につけ、地域社会の発展に貢献する意欲のある人
 2. 国際社会において活躍する意欲と熱意のある人
 3. 高等学校で履修する科目全般についての基礎を十分理解している人
- なお、各学科のアドミッション・ポリシーは次のとおりです。

◎**生物学科**

- (1) 動植物の生命現象の解析を通じて、生物の基礎的現象のしくみの解明に意欲のある人
- (2) 生物の生態や分類に興味を持ち、生物が持つ多様性、適応戦略、進化のメカニズムの解明に意欲のある人

◎**分子生命科学科**

- (1) 生命現象の不思議や未知の生物機能について、細胞レベル・遺伝子レベル・分子レベル・原子レベルで解明していく意欲のある人
- (2) 生物のもつ潜在能力を掘り起こすことを通じて、次世代のバイオテクノロジーを創り出していく意欲のある人

◎**生物資源学科**

- (1) 植物バイオテクノロジーや食品科学的手法による生物資源の機能解析を通じて、食料資源の機能開発に意欲のある人
- (2) 多様な昆虫・微生物の相互作用などの生産環境の特性を明らかにし、生物生産の環境的課題解決に意欲のある人

◎**園芸農学科**

- (1) 自然と調和する農業生産のあり方や新しい食料資源の開発と利用に意欲のある人
- (2) 経済システムの立場から、農業をめぐる諸問題の解決に意欲のある人

◎**地域環境工学科**

- (1) 農山村の自然空間を重視した生物の生存環境の維持・保全、地域社会のあり方などの問題解決に意欲のある人
- (2) 土や水に関する農業土木技術を生かし、農業生産基盤の整備や地域づくりに意欲のある人

2 推薦入試募集人員

実施学部等		募 集 人 員		
		推 薦 入 試 I (大学入試センター試験 を課さないもの)	推 薦 入 試 II (大学入試センター試験 を課すもの)	
人文学部	人間文化課程	20		
	現代社会課程	20		
	経済経営課程	20		
	計	60		
教育学部	学校 教育 専攻	教育学専修	2	
		発達心理専修	2	
	教科 教育 専攻	幼児教育専修	2	
		国語専修	2	
		社会専修	2	
		算数・数学専修	(※)	
		理科専修	(※)	
		音楽専修	2	
		美術専修	2	
		保健体育専修	(※)	
		技術専修	2	
		家庭科専修	2	
	英語専修	(※)		
	特別支援教育専攻	3		
生涯 教育 専攻	養護教諭養成課程	5		
	健康生活専攻	5		
	芸術文化専攻	4		
	地域生活専攻	10		
	計	45		
医学部	医 学 科		(※)	
	保健 学科	看護学専攻		23
		放射線技術科学専攻		8
		検査技術科学専攻		4
		理学療法学専攻		4
		作業療法学専攻		6
計		45		
理工学部	数 理 科 学 科	4		
	物 理 科 学 科	8		
	物質創成化学科	6	2	
	地球環境学科	8	3	
	電子情報工学科	10	5	
	知能機械工学科	8		
	計	44	10	
農学生命科学部	生 物 学 科	5		
	分子生命科学科	4		
	生物資源学科	5		
	園芸農学科	8		
	地域環境工学科	4		
	計	26		
合 計		175	55	

※ 推薦入試の募集を行いません。

3 出願期間

	志 願 学 部 等	出 願 期 間
推 薦 I	人 文 学 部 教 育 学 部 理 工 学 部 農 学 生 命 学 部	平成 23 年 11 月 1 日 (火) ～ 平成 23 年 11 月 7 日 (月) 午後 5 時必着 持参の場合は、9:00 から 17:00 まで受付します。 なお、郵送、持参ともに出願期間最終日の午後 5 時以降に到着したものは受理しません。
推 薦 II	医 学 部 保 健 学 科 理 工 学 部 (物 質 創 成 化 学 科) (地 球 環 境 学 科) (電 子 情 報 工 学 科)	平成 23 年 12 月 1 日 (木) ～ 平成 23 年 12 月 6 日 (火) 午後 5 時必着 持参の場合は、9:00 から 17:00 まで受付します。 なお、郵送、持参ともに出願期間最終日の午後 5 時以降に到着したものは受理しません。

4 出願書類等の提出先

志 願 学 部 等	提 出 先
人 文 学 部 教 育 学 部 理 工 学 部 農 学 生 命 学 部	〒 036 - 8560 青森県弘前市文京町 1 番地 弘前大学 学務部 入試課 電 話 0172 (39) 3122
医 学 部 保 健 学 科	〒 036 - 8564 青森県弘前市本町 66 の 1 弘前大学 保健学研究科 学務グループ 電 話 0172 (39) 5911

5 出願書類等

	提 出 書 類 等	摘 要
1	志 願 票 A	本人が記入してください。
	志 願 票 B	本人が記入してください。
	写 真 票	写真貼付欄には、出願前 3 カ月以内に撮影した無帽上半身の
	受 験 票	もの (タテ 4 cm × ヨコ 3 cm) を貼り付けてください。
2	推薦平成 24 センター 試験成績請求票 国公立推薦入試用	推薦 II の志願者は、12 月中旬に大学入試センターから【推薦平成 24 センター試験成績請求票国公立推薦入試用】が届き次第、速やかに提出してください。

提出書類等	摘要
3 「振替払込受付 証明書(大学提出用)」貼付台紙	<p>検定料 17,000 円を、別添の「払込取扱票」を用いて、最寄りの郵便局から払い込んでください。</p> <p>払い込み済みの「振替払込受付証明書(大学提出用)」を添付様式の貼付台紙に貼り付けて提出してください。</p> <p>なお、払込期間は、別添の「払込取扱票」に記載のとおりです。</p> <p>(注意) 払い込み済みの検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 検定料を払い込んだが出願書類を提出しなかった場合 2. 検定料を払い込んだが出願書類が受理されなかった場合 3. 誤って検定料を二重に払い込んだ場合 <p>上記 1～3 の場合は、学務部入試課までお問い合わせください。</p>
4 推 薦 書	添付の様式に、推薦する学校長が作成し、厳封したもの。
5 調 査 書	所定の様式により、推薦する学校長が作成し、厳封したもの。
6 受験票返送用封筒	添付の封筒に、本人の住所・氏名を明記し、郵便切手 350 円分を貼り付けてください。
7 合格通知用封筒	選考結果を確実に受信できる住所・氏名を記入してください。切手は不要です。
8 自 己 P R 書	教育学部志願者は、自己 P R 書を提出してください。自己 P R 書は、A 4 サイズの用紙(片面 1 枚)に各自で自由に作成してください。内容については、14 ページの表に従ってください。
9 志 望 理 由 書	人文学部(推薦Ⅰ)及び理工学部(推薦Ⅱのみ)の志願者は、添付の様式により提出してください。
10 あ て 名 票 (弘前大学生協提出用)	添付の様式により、32 ページの「2. 第三者への提供」に同意する場合のみ、提出してください。

6 出願上の注意

1. 本学を含めた国公立大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)へ出願することができるのは、一つの大学・学部です。
 なお、本学理工学部では、推薦Ⅰと推薦Ⅱを別日程で実施するため、推薦Ⅰで不合格となった者が、同一学科の推薦Ⅱに出願することが可能となっております。
2. 出願書類に、次のような不備があるものは受理しません。
 - (1) 志願票等に記入漏れ、誤記のあるもの
 - (2) 「振替払込受付証明書(大学提出用)」が貼付されていないもの
 - (3) 必要な証明書等が添付されていないもの
3. 提出した出願書類等の記載内容の変更は認めません。
4. 提出した出願書類等に虚偽の申告があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
5. 提出した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。
6. 出願書類等の提出後、受信場所を変更した場合は、直ちに出願書類提出先に連絡してください。

7. 身体に障害を有する志願者等との事前相談について

本学に入学を志願する者で、身体に障害（学校教育法施行令第22条の3に定める身体障害の程度）がある者等は、受験上及び修学上特別の配慮を必要とすることがあるので、出願の前に、あらかじめ入試課へ申し出てください。

(1) 事前相談の申し出期限

〔推薦Ⅰ〕平成23年10月7日（金）まで

〔推薦Ⅱ〕平成23年11月4日（金）まで

(2) 連絡先

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地 弘前大学学務部入試課
電 話 0172 (39) 3122

7 学部ごとの出願要件・選抜方法等

I. 人文学部

1. 趣 旨

入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除して選抜を行います。

2. 課程及び募集人員

課 程	募集人員 (推薦入試 I)
人 間 文 化 課 程	20 人
現 代 社 会 課 程	20 人
経 済 経 営 課 程	(*) 20 人

※経済経営課程では、募集人員20人のうち、商業に関する高等学校、又は高等学校若しくは中等教育学校の商業、情報処理に関する課程、又は高等学校若しくは中等教育学校の総合学科（商業又は情報の単位を修得した者）からは、10人程度の合格者を予定しています。

3. 対象となる高等学校等の範囲

全国の高等学校若しくは中等教育学校

4. 推薦の要件

次の要件を備え、出身学校長が責任をもって推薦し、合格した場合は入学することを確約できる者

○人間文化課程、現代社会課程

- (1) 平成24年3月卒業見込みの者
- (2) 調査書の全体の評定平均値が4.0以上の者（出願時直前の学期までの成績による）
- (3) 国語、外国語、地理歴史、公民のうち、いずれか1教科の成績が、特に優れた者

○経済経営課程

平成24年3月卒業見込みの者

- A 全国の商業に関する高等学校、又は高等学校若しくは中等教育学校の商業、情報処理に関する課程、又は高等学校若しくは中等教育学校の総合学科（商業又は情報に関する教科・科目を20単位以上修得（見込みを含む）した者）
- (1) 調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者（出願時直前の学期までの成績による）
 - (2) 日本商工会議所主催簿記検定試験2級、財団法人全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験1級、独立行政法人情報処理推進機構主催基本情報技術者試験、財団法人全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験1級のいずれかに合格している者

B 全国の高等学校若しくは中等教育学校で、前ページA以外のもの

- (1) 調査書の全体の評定平均値が4.0以上の者（出願時直前の学期までの成績による）
- (2) 国語，外国語，地理歴史，公民のうち，いずれか1教科の成績が，特に優れた者

※経済経営課程の募集人員20人のうち，商業に関する高等学校，又は高等学校若しくは中等教育学校の商業，情報処理に関する課程，又は高等学校若しくは中等教育学校の総合学科（商業又は情報の単位を修得した者）からは，10人程度の合格者を予定しています。

5. 出願時注意事項

志願者は，添付の様式により「志望理由書」を提出すること。

6. 選抜方法

小論文，面接，志望理由書，推薦書及び調査書の結果を総合して行います。

(1) 試験実施日時及び試験場

試験実施日	科目等	時間	試験場
平成23年11月19日(土)	小論文	10:30～12:00	総合教育棟
	面接	13:00～	

(2) 小論文の出題形式

一つのテーマについて論述させる。(制限字数800字)

(3) 面接の方法

個人面接方式（複数の教員で受験者一人ずつの面接を行う）

(4) 推薦入試で課す科目等の配点

試験の区分 課程	試験の区分		志望理由書	推薦書	調査書	計
	小論文	面接				
人間文化課程	75	75		50		200
現代社会課程	75	75		50		200
経済経営課程	75	75		50		200

Ⅱ. 教育学部

1. 趣 旨

入学定員の一部について，出身学校長の推薦に基づき，大学入試センター試験及び個別学力検査を免除して選抜を行います。

2. 課程・専攻等及び募集人員

課程・専攻等		募集人員 (推薦入試Ⅰ)		
学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	学 校 教 育 専 攻	教育科学専修	2	
		発達心理専修	2	
		幼児教育専修	2	
	教 科 教 育 専 攻	国 語 専 修	国 語 専 修	2
			社 会 専 修	2
		算 数 ・ 数 学 専 修	算数・数学専修	
			理 科 専 修	
		音 楽 専 修	2	
		美 術 専 修	2	
		保 健 体 育 専 修		
		技 術 専 修	2	
		家 庭 科 専 修	2	
		英 語 専 修		
	特別支援教育専攻	3		
養護教諭養成課程	5			
生 涯 教 育 課 程	健康生活専攻	5		
	芸術文化専攻	4		
	地域生活専攻	10		

3. 対象となる高等学校等の範囲

全国の高等学校若しくは中等教育学校

4. 推薦の要件

次の要件を備え、出身学校長が責任をもって推薦し、合格した場合は入学することを確約できる者

- (1) 平成24年3月卒業見込みの者
- (2) 人物、学力ともに優れ、高等学校等における調査書の全体の評定平均値及び特定教科の評定平均値が以下のとおりである者

		全体の評定平均値	特定教科の評定平均値
学校 教育 専攻	教育科学専修	4.0 以上	
	発達心理専修	4.0 以上	
	幼児教育専修	4.0 以上	
学校 教育 教員 養成 課程	国 語 専 修	4.0 以上	国語 4.2 以上
	社 会 専 修	4.0 以上	地歴 4.0 以上, かつ公民 4.0 以上
	音 楽 専 修	4.0 以上	
	美 術 専 修	4.0 以上	
	技 術 専 修	4.0 以上	
	家 庭 科 専 修	4.0 以上	
	特別支援教育専攻	4.0 以上	
養護教諭養成課程		4.0 以上	
生涯 教育 課程	健 康 生 活 専 攻	3.5 以上	
	芸 術 文 化 専 攻	4.0 以上	
	地 域 生 活 専 攻	4.0 以上	

5. 出願時注意事項

自己PR書

教育学部志願者は、出願書類として自己PR書を提出すること。自己PR書は、任意のA4サイズの用紙（片面1枚）に各自で自由に作成してください。

なお、内容については、各課程・専攻・専修ごとに以下の点に留意して作成してください。

学校教育教員養成課程	養護教諭専攻	教育科学専修	自由に自己をPRすること。
		発達心理専修	
		幼児教育専修	
	教科教育専攻	国語専修	自由に自己をPRすること。
		社会専修	
		音楽専修	
		美術専修	
		技術専修	
家庭科専修			
	特別支援教育専攻	自由に自己をPRすること。	
	養護教諭養成課程	自由に自己をPRすること。	
生涯教育課程	健康生活専攻	自由に自己をPRすること。ただし、校内外における体育的活動ならびにスポーツ活動について記す場合には、活動内容や競技成績等を明記し、大会等に出場した場合は競技成績が明確に分かるものをコピーして添付することができる（コピーの際は、拡大縮小によりA4サイズで提出すること）。なお、各種スポーツ団体が独自に主催するスポーツ大会等についても同様とする。	
		芸術文化専攻	自分の得意分野、特技及び卒業後の社会における自分の役割について考えていることを述べること。
		地域生活専攻	自分の経験、関心あるいは得意分野と関連させ、本専攻で学びたいこと、卒業後の社会における自分の役割について考えていることを述べること。

6. 選抜方法

- 学校教育教員養成課程学校教育専攻（教育科学専修，幼児教育専修）・教科教育専攻（国語専修，社会専修，美術専修，技術専修，家庭科専修），養護教諭養成課程，生涯教育課程芸術文化専攻・地域生活専攻

小論文，面接，自己PR書，推薦書及び調査書の結果を総合して行います。

- 学校教育教員養成課程教科教育専攻（音楽専修）

実技試験，面接，自己PR書，推薦書及び調査書の結果を総合して行います。

- 学校教育教員養成課程学校教育専攻（発達心理専修）・特別支援教育専攻，生涯教育課程健康生活専攻

面接，自己PR書，推薦書及び調査書の結果を総合して行います。

(1) 試験実施日時及び試験場

課程・専攻等		試験実施日	科目・時間	科目・時間	試験場	
学校教育 教育 教員 養成 課程	学校教育専攻	11月19日(土)	教育科学専修	小論文 10:00～11:30	面接 12:30～17:00	総合教育棟・教育学部 (音楽棟)
			発達心理専修	〃	面接 10:00～17:00	
			幼児教育専修	〃	小論文 10:00～11:30	
	教科	〃	国語専修	小論文 10:00～11:30	面接 12:30～15:00	
			社会専修	小論文 10:00～11:30	面接 12:30～14:30	
	音楽専修		実技試験 10:00～11:30	面接 12:30～14:30		
	美術専修		小論文 10:00～11:30	面接 12:30～14:30		
	技術専修		小論文 10:00～11:30	面接 12:30～14:30		
	家庭科専修		小論文 10:00～11:30	面接 12:30～14:30		
	特別支援教育専攻		〃	面接 10:00～12:00		
養護教諭養成課程	〃	小論文 10:00～11:30	面接 12:30～14:30			
生涯教育 課程	健康生活専攻	11月20日(日)		面接 10:00～17:00		
	芸術文化専攻	〃	小論文 10:00～11:30	面接 12:30～17:00		
	地域生活専攻	〃	小論文 10:00～11:30	面接 12:30～17:00		

(注) 面接の終了時間は、受験者数によって調整することがあります。

(2) 小論文の出題形式

課題を提示して論述させる。(制限字数800字)

(3) 面接の方法

個人面接方式(複数の教員で受験者一人ずつの面接を行う)

ただし、発達心理専修は、集団面接と個人面接の両方を行います。

- ・美術専修受験者は、学校の授業内での作品や課題活動での自主的な作品、またはポートフォリオ(作品写真等をまとめてファイルや作品集にしたもの)を面接時に資料として提出してください。資料は自らの責任で搬入搬出できるものに限ります。
- ・技術専修は、簡単な実技を課すことがあります。
- ・芸術文化専攻は、希望により自己PR書に記した自己の能力を資料・作品・実技等で示すことができます。なお、ピアノ、マリンバ以外を演奏する場合は、各自楽器を持参願います。

(4) 実技試験の方法

音楽専修の実技試験では、次の①～③の3つを課題として課します。

- ① コールユーブンゲン第1巻全曲から1曲当日指定
- ② コンコーネ50番(中声用)の21番、25番、31番より1曲当日指定。母音で歌うこと。
- ③ ピアノ独奏(任意の楽曲)

(5) 推薦入試で課す科目等の配点

課程・専攻等		試験の区分					
		小論文	面接	実技試験	計		
学校教育 専攻	学校教育専攻	教育科学専修	100	100		200	
		発達心理専修		100		100	
		幼児教育専修	100	100		200	
	教科教育 専攻	教科教育専攻	国語専修	100	100		200
			社会専修	100	100		200
			音楽専修		100	100	200
			美術専修	100	100		200
			技術専修	100	100		200
			家庭科専修	100	100		200
			特別支援教育専攻		100		100
養護教諭養成課程	100	100		200			
生涯教育 課程	生涯教育課程	健康生活専攻		100		100	
		芸術文化専攻	100	100		200	
		地域生活専攻	100	100		200	

※ 自己PR書・推薦書・調査書については、面接の資料として使用します。

Ⅲ. 医学部保健学科

1. 趣 旨

入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、大学入試センター試験を課し個別学力検査を免除して選抜を行います。

2. 専攻及び募集人員

専 攻	募集人員 (推薦入試Ⅱ)
看護学専攻	23人
放射線技術科学専攻	8人
検査技術科学専攻	4人
理学療法学専攻	4人
作業療法学専攻	6人

3. 対象となる高等学校等の範囲

全国の高等学校若しくは中等教育学校

4. 推薦の要件

次の要件を備え、出身学校長が責任をもって推薦し、合格した場合は入学することを確約できる者

- (1) 平成24年3月卒業見込みの者
 (2) 人物、学力ともに優れ、高等学校等の調査書において以下の要件を満たす者

看護学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者
放射線技術科学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者で、「物理Ⅱ」を履修した者
検査技術科学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者
理学療法学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者
作業療法学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者

- (3) 次のとおり平成24年度大学入試センター試験の5教科7科目をすべて受験する者
 国（国語）
 地歴（世A，世B，日A，日B，地理A，地理B） _____ から1
 公民（現社，倫，政経，倫政経） _____ から1
 数（数Ⅰ・数A）
 数（数Ⅱ・数B，工，情報から1）
 理（物Ⅰ，化Ⅰ，生Ⅰから2）
 外（英，独，仏，中，韓から1）

5. 選抜方法

大学入試センター試験，小論文，面接，推薦書及び調査書の結果を総合して行います。

(1) 試験実施日時及び試験場

試験実施日	科目等	時間	試験場
平成23年12月17日(土)	小論文	9:00～10:00	医学部保健学科
	面接	10:30～	

(2) 小論文の出題形式

専攻	出題形式	制限字数
看護学専攻	一つのテーマについて論述させる。	800字
放射線技術科学専攻		
検査技術科学専攻		
理学療法学専攻		
作業療法学専攻		

(3) 面接の方法

専攻	実施方法
看護学専攻	個人面接方式 (複数の教員で受験者一人ずつの面接を行う)
放射線技術科学専攻	複数の教員により、集団面接方式で行います。
検査技術科学専攻	個人面接方式 (複数の教員で受験者一人ずつの面接を行う)
理学療法学専攻	個人面接方式 (複数の教員で受験者一人ずつの面接を行う)
作業療法学専攻	複数の教員により、集団面接方式で行います。

(4) 推薦入試で課す科目等の配点

試験の区分 専攻	大学入試センター試験						小論文	面接	計
	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語			
看護学専攻	200	100	200	200	200	200	700	200	1,800
放射線技術科学専攻	200	100	200	200	200	200	600	300	1,800
検査技術科学専攻	200	100	200	200	200	200	600	300	1,800
理学療法学専攻	200	100	200	200	200	200	600	300	1,800
作業療法学専攻	200	100	200	200	200	200	600	300	1,800

※ 推薦書・調査書については、面接の資料として使用します。

(5) 大学入試センター試験「英語」におけるリスニングの取扱い

大学入試センター試験の「英語」の配点は、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計得点を200点満点に換算して利用します。

なお、リスニングを受験しない場合は、合格者とはならないので注意してください。

(6) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合の取扱い

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」、「公民」及び「理科」については、第1解答科目の成績を用います。

IV. 理工学部

1. 趣 旨

入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、次の方法で選抜を行います。
推薦入試Ⅰでは、全学科で大学入試センター試験及び個別学力検査を免除して選抜を行います。

また、推薦入試Ⅱでは、物質創成化学科、地球環境学科及び電子情報工学科で、大学入試センター試験を課し個別学力検査を免除して選抜を行います。

2. 学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員	
	推薦入試Ⅰ	推薦入試Ⅱ
数 理 科 学 科	4 人	
物 理 科 学 科	8 人	
物 質 創 成 化 学 科	6 人	2 人
地 球 環 境 学 科	8 人	3 人
電 子 情 報 工 学 科	10 人	5 人
知 能 機 械 工 学 科	8 人	

3. 対象となる高等学校等の範囲〔推薦Ⅰ及び推薦Ⅱ共通〕

全国の高等学校若しくは中等教育学校又は高等専門学校

4. 推薦の要件

各選抜方法ごとに次の要件を備え、出身学校長が責任をもって推薦し、合格した場合は入学することを確約できる者

〔推薦Ⅰ〕

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を平成24年3月卒業見込みの者、又は高等専門学校3年次を平成24年3月修了見込みの者
- (2) 人物が優れ、志願する学科の教育・研究内容に強い興味があり、自発的学習意欲と問題解決のための思考力及び資質を有し、かつ十分な基礎学力を有する者
- (3) 高等学校等における調査書の全体の評定平均値及び特定教科の評定平均値が以下のとおりである者

学 科	高校等の学科	全 体 の 評 定 平 均 値	特定教科の評定平均値等
数 理 科 学 科		4.3 以上	
物 理 科 学 科			数学及び理科(物理)がともに 4.0 以上
物 質 創 成 化 学 科			数学, 理科, 外国語がともに 4.0 以上 (ただし, 理科は物理, 化学から 1 科目以上を含むこと)
地 球 環 境 学 科		4.0 以上	数学及び理科がともに 4.0 以上 (ただし, 理科は物理, 化学, 地学から 1 科目以上を含むこと)
電 子 情 報 工 学 科	工 業 又 は 商 業 に関する学科及び総合学科(※1)	4.0 以上	数学, 理科, 外国語のうち 2 教科が 4.3 以上 (ただし, 理科は物理, 化学から 1 科目以上を含むこと)
	上記以外の学科	4.0 以上	数学, 理科, 外国語がともに 4.2 以上 (ただし, 理科は物理, 化学から 1 科目以上を含むこと)
知 能 機 械 工 学 科	工 業 に関する学科(※2)	4.2 以上	数学, 理科 (物理又は化学のうち 1 科目), 外国語がともに 4.2 以上
	上記以外の学科		数学, 理科 (物理又は化学のうち 1 科目), 外国語がともに 4.0 以上

※1 電子情報工学科では、「高等学校等の工業又は商業に関する学科（高等専門学校の学科を含む）及び総合学科」から、合わせて5人以上の合格者を予定しています。

※2 知能機械工学科では、「高等学校等の工業に関する学科（高等専門学校の学科を含む）」から、3人以上の合格者を予定しています。

〔推薦Ⅱ〕

○物質創成化学科，地球環境学科，電子情報工学科共通

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成24年3月卒業見込みの者，又は高等専門学校3年次を平成24年3月修了見込みの者
- (2) 人物が優れ，志願する学科の教育・研究内容に強い興味があり，自発的学習意欲と問題解決のための思考力及び資質を有し，かつ十分な基礎学力を有する者
- (3) 次のとおり平成24年度大学入試センター試験の5教科7科目をすべて受験する者

国（国語）
地歴（世A，世B，日A，日B，地理A，地理B） _____ から1
公民（現社，倫，政経，倫政経） _____ から1
数（数Ⅰ，数Ⅰ・数Aから1）
数（数Ⅱ，数Ⅱ・数B，工，簿，情報から1）
理（理総A，理総B，物Ⅰ，化Ⅰ，生Ⅰ，地学Ⅰから2）
※ただし，「物Ⅰ」または「化Ⅰ」のいずれかを1含むこと
外（英，独，仏，中，韓から1）

5. 選抜方法

推薦Ⅰは，面接（基礎学力に関する試問を含む），推薦書及び調査書の結果を総合して行います。

推薦Ⅱは，大学入試センター試験，面接（基礎学力に関する試問を含む），志望理由書，推薦書及び調査書の結果を総合して行います。

(1) 試験実施日時及び試験場

〔推薦Ⅰ〕

試験実施日	科目等	時間	試験場
平成23年11月20日(日)	面接	13:00～	理工学部

〔推薦Ⅱ〕

試験実施日	科目等	時間	試験場
平成23年12月17日(土)	面接	13:00～	理工学部

(2) 面接の方法〔推薦Ⅰ及び推薦Ⅱ共通〕

個人面接方式（複数の教員で受験者一人ずつの面接を行う）
一人当たり15分～20分程度とします。

(3) 推薦入試で課す科目等の配点

[推薦Ⅰ]

試験の区分 学 科	面 接	調 査 書	推 薦 書	計
数 理 科 学 科	100	100	50	250
物 理 科 学 科	100	100	50	250
物 質 創 成 化 学 科	100	100	50	250
地 球 環 境 学 科	100	100	50	250
電 子 情 報 工 学 科	100	100	50	250
知 能 機 械 工 学 科	100	100	50	250

[推薦Ⅱ]

試験の区分 学 科	大学入試センター試験						面 接 推 薦 書 調 査 書 志 望 理 由 書	計
	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		
物 質 創 成 化 学 科	200	100		200	200	200	1,800	2,700
地 球 環 境 学 科	200	100		200	200	200	1,800	2,700
電 子 情 報 工 学 科	200	100		200	200	200	1,800	2,700

(4) 大学入試センター試験「英語」におけるリスニングの取扱い

大学入試センター試験の「英語」の配点は、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計得点を200点満点に換算して利用します。

なお、リスニングを受験しない場合は、合格者とはならないので注意してください。

(5) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合の取扱い

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」、「公民」及び「理科」については、第1解答科目の成績を用います。

V. 農学生命科学部

1. 趣 旨

入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除して選抜を行います。

2. 学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員 (推薦入試 I)
生 物 学 科	5 人
分 子 生 命 科 学 科	4 人
生 物 資 源 学 科	5 人
園 芸 農 学 科	8 人
地 域 環 境 工 学 科	4 人

3. 対象となる高等学校等の範囲

次の学科又は課程を有する全国の高等学校若しくは中等教育学校

○生物学科，分子生命科学科，生物資源学科，地域環境工学科

農業，林業，水産，工業，情報に関する学科，又は普通科，理数科，総合学科に関する課程

○園芸農学科

農業，林業，水産，工業，商業，情報に関する学科，又は普通科，理数科，総合学科に関する課程

4. 推薦の要件

次の要件を備え、出身学校長が責任をもって推薦し、合格した場合は入学することを確約できる者

○生物学科，分子生命科学科，生物資源学科，地域環境工学科

(1) 農業，林業，水産，工業，情報に関する学科，又は普通科，理数科，総合学科を平成24年3月卒業見込みの者

(2) 人物，学力ともに優れ，高等学校等における調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者

○園芸農学科

(1) 農業，林業，水産，工業，商業，情報に関する学科，又は普通科，理数科，総合学科を平成24年3月卒業見込みの者

(2) 人物，学力ともに優れ，高等学校等における調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者

(3) 募集人員8人のうち，高等学校等の農業，林業，水産，工業，商業，情報に関する学科の卒業見込み者からは4人程度の合格者を予定しています。

5. 選抜方法

小論文、面接、推薦書及び調査書の結果を総合して行います。

(1) 試験実施日時及び試験場

試験実施日	科目等	時間	試験場
平成23年11月20日(日)	小論文	10:00~11:30	農学生命科学部
	面接	13:00~	

(2) 小論文の出題形式

一つのテーマについて論述させる。(制限字数800字)

生物学科、分子生命科学科、生物資源学科及び園芸農学科では、一部基礎的な英語で設問することがある。

(3) 面接の方法

個人面接方式(複数の教員で受験者一人ずつの面接を行う)

一人当たり10分程度

基礎学力(英語を含む)に関する口頭試問を行うことがある。

(4) 推薦入試で課す科目等の配点

試験の区分 学 科	小論文	面接	推薦書 調査書	計
生物学科	100	100	50	250
分子生命科学科	100	100	50	250
生物資源学科	100	100	50	250
園芸農学科	100	100	50	250
地域環境工学科	100	100	50	250

VI. 採点・評価基準，合否判定基準

人 文 学 部	<p>小論文，面接，志望理由書，推薦書及び調査書の結果を総合して行うが，次のとおり点数化して評価する。</p> <p>小論文75点，面接・志望理由書75点，推薦書・調査書50点 合計200点</p> <p>基準1 順位は，小論文，面接・志望理由書，推薦書・調査書の合計点の高い順とする。</p> <p>基準2 「基準1」により同点者が複数いる場合は，小論文得点の高い者を上位とする。</p> <p>基準3 「基準2」により同点者が複数いる場合は，面接・志望理由書の得点の高い者を上位とする。</p> <p>(小論文)</p> <p>課題についての自分の考えを的確に述べていること，文章表現が豊かでかつ内容が独創的であること，論旨が明確であること等を総合的に評価し，点数化する。</p> <p>なお，採点は複数の委員で行い，平均点を得点とする。</p> <p>(面接)</p> <p>面接をとおして志望課程への関心，意欲，適性等を客観的に評価し，複数の委員により点数化し，平均点を得点とする。</p>
教 育 学 部	<p>小論文，面接及び実技試験(音楽)の結果を総合的に評価して行う。</p> <p>なお，推薦書，調査書及び自己PR書は面接の資料として用いる。</p> <p>(小論文)</p> <p>論述の内容が，与えられた課題に則しており，論理的であること，自分の考えや意見が明確であること，また言葉づかいが正確であること等を総合的な評価の基準とする。</p> <p>(面接)</p> <p>志望専攻への動機・興味・関心・意欲・資質等を複数の委員で総合的に評価する。</p> <p>(実技試験)</p> <p>音楽に関する基礎的能力を評価する。</p>
医 学 部 保 健 学 科	<p>大学入試センター試験，小論文，面接，推薦書及び調査書の結果を総合して評価する。</p> <p>(小論文)</p> <p>与えられた課題に対して，主として論理的に自分の考えや意見を論述しているかを採点評価する。</p> <p>(面接)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学専攻，検査技術科学専攻及び理学療法学専攻においては，個人面接（複数の面接員で受験者1名ずつの面接）を行い，面接をとおして志望専攻への関心，意欲，適正等を客観的に評価し，面接員個々の評価を総合して点数化する。 2. 放射線技術科学専攻及び作業療法学専攻においては，集団面接方式（複数の面接員で複数の受験者を面接）により行い，専門職としての適性を総合的に採点評価する。 <p>(調査書)</p> <p>高等学校における学力レベル，学習態度，性格，欠席日数などについて，面接時の資料とする。</p>

理 工 学 部	<p>〔推薦Ⅰ〕</p> <p>1. 合格者は、面接、推薦書及び調査書で評価し、その合計点の高い順に決定する。</p> <p>〔推薦Ⅱ〕</p> <p>1. 合格者は、大学入試センター試験及び面接・推薦書・調査書・志望理由書で評価し、その合計点の高い順に決定する。</p> <p>〔推薦Ⅰ，推薦Ⅱ共通〕</p> <p>2. 面接は、志望学部・学科への興味・関心・意欲、基礎学力及び各学科が「推薦の要件」で示してある要件等を複数の委員で評価し、点数化する。</p> <p>3. 調査書については、各学科で以下のように取り扱う。 数理科学科：記載事項のすべてを評価の対象とする。 物理科学科：全体の評定平均値を評価の対象とする。 物質創成化学科：全体の評定平均値を評価の対象とする。 地球環境学科：記載事項のすべてを評価の対象とする。 電子情報工学科：全体の評定平均値を評価の対象とする。 知能機械工学科：全体の評定平均値を評価の対象とする。</p> <p>4. 合格点が同一の場合、推薦Ⅰについては面接、調査書、推薦書の順序で点数の高い者を上位者とする。また、推薦Ⅱの場合は、面接・推薦書・調査書・志望理由書の得点の高い者を上位者とする。</p>
農 学 生 命 学 部	<p>小論文、面接、推薦書及び調査書を、次のとおり点数化して評価する。 小論文100点、面接100点、推薦書・調査書は50点 合計点250点</p> <p>1. 合格者は、小論文、面接及び推薦書・調査書の合計点の高い順に決定する。</p> <p>2. 1の合計点が同一の場合は、小論文、面接の順序で点数の高い者を上位者とする。</p> <p>（小論文） 課題について題意を適切に理解し、自分の考えや意見を的確に論述しているか等について複数の委員により点数化し、平均点を得点とする。</p> <p>（面接） 志望学部・学科への興味・関心・意欲・適性を客観的に評価し、複数の委員により点数化し、平均点を得点とする。</p>

8 合格者の発表

合格発表日	志願学部学科等
〔推薦Ⅰ〕 平成23年11月25日(金) 午後2時(予定)	人文学部
	教育学部
	理工学部
	農学生命科学部
〔推薦Ⅱ〕 平成24年2月5日(日) 午前10時(予定)	医学部保健学科
	理工学部 (物質創成化学科, 地球環境学科, 電子情報工学科)

1. 合格者の受験番号は、本学大学会館前掲示場に発表するとともに、推薦学校長及び合格者本人に通知します。また、次のアドレス (URL) <http://daigaku.jc.jp/hirosaki-u/> (携帯電話及びパソコン) から確認することができます。(通信料は各自の負担となります。)
なお、電話等による可否の問い合わせには一切応じません。
2. 合格者には、合格発表後速やかに「合格通知用封筒」に記載されたあて先に合格通知書及び入学手続書類を送付します。
数日経っても書類が届かない場合は、入試課へ問い合わせ願います。

9 入学手続

1. 入学手続の方法

入学試験に合格した者は、郵送又は持参により、入学手続を行ってください。

期日に手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱います。

○郵送の場合 … 平成24年2月6日(月)から平成24年2月12日(日)午後5時までに到着するように、必要書類一式を「書留速達」で郵送してください。郵送先は学務部入試課になります。

○持参の場合 … 平成24年2月13日(月)の午前9時から午後4時に、本学に入学手続会場を設けますので、必要書類を持参のうえ手続してください。

2. 入学手続きの際に提出・納付するもの

入学手続きの際には、以下のものが必要になります。

詳細は合格通知書送付の際にお知らせします。

(1) 合格通知書	合格発表時に送付します。
(2) 大学入試センター試験 受験票	推薦Ⅱ受験者のみ必要。(推薦Ⅰ受験者は不要) 試験後も大切に保管しておいてください。
(3) 宣誓書	合格通知の際に、本学所定用紙を送付します。200円の収入印紙1枚と、2人分の印鑑(本人と保証人の分)が必要になります。
(4) 保証書	
(5) 入学金 282,000円(予定)	合格通知の際に、本学所定の振込用紙を送付します。銀行窓口での納付となります。

※授業料は、年額535,800円(前期分267,900円 後期分267,900円)(予定)になります。納付期限は、前期分4月27日、後期分10月31日となっておりますが、本学では、前期分授業料を入学手続き時に納付いただくようお願いしております。(前・後期分の一括納付もできます。)なお、授業料については、上記「(5)入学金」と併せて、本学所定の振込用紙により納付できます。

※入学時までに入学金及び授業料が改定された場合は、それぞれ改定後の額となります。また、在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※入学金及び授業料の免除・徴収猶予を希望する者は、事前に申請用紙を取り寄せたうえで、入学手続きまでに書類を準備する必要があります。詳しくは次ページの「**10 入学金及び授業料の免除・徴収猶予を希望される方へのお知らせ**」をご覧ください。

3. 入学手続きに関する注意事項

- ① 推薦入試合格者は、本学に入学しなければなりません。もし、特別な事情によって入学辞退の必要が生じた場合には、入学手続き日までに辞退の手続きをして、本学の許可を得なければなりません。

推薦入試合格者が、入学手続きを行わず、辞退の手続きも行っていない場合は、その後本学及び他の国公立大学の一般入試(前期日程・後期日程)を受験しても合格者となることはできませんのでご留意願います。詳細は学務部入試課までお問い合わせください。

- ② 納付済みの入学金については、いかなる理由があっても返還しません。
- ③ 納付済みの授業料については、平成24年3月31日(土)午後5時までに入学を辞退した者に限り、当該授業料相当額を返還します。

10 入学料及び授業料の免除・徴収猶予を希望される方へのお知らせ

入学料及び授業料については免除・徴収猶予制度があります。

①「入学料」の免除・徴収猶予	入学前1年以内において、学資負担者が死亡又は風水害等の災害を受けた場合などの 特別な事情 によって入学料の納付が著しく困難な場合は、本人の申請に基づき、選考の上、入学料の免除（半額）又は延納を認めることがあります。
②「授業料」の免除・徴収猶予	経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合には、本人の申請に基づき、選考の上、授業料の免除（全額又は半額）又は延納若しくは月割分納を認めることがあります。

合格発表から入学手続き日までの期間が短いので、免除・徴収猶予を希望する者は、あらかじめ（合格発表前であっても）申請書類を請求し、記入した申請書類に家族全員の所得証明書をはじめとする必要書類を添えて、入学手続きの際に申請してください。

入学料免除は、上の表中①で示した特別な事情（①に準ずる場合で、学長が相当と認める理由がある場合を含む）がないかぎり申請しても許可にはなりません。ただし、徴収猶予の申請は可能です。詳細については担当（学生課生活支援グループ）までお問い合わせください。

◆郵送による申請書類の請求方法

請求する封筒の表に「入学料免除申請書類請求」又は「授業料免除申請書類請求」と朱書し、「**角形2号の返信用封筒**」及び「**志願学部学科、受験者氏名、連絡先電話番号（携帯番号可）**」を明記したメモを同封のうえ、送付してください。

(1) 返信用封筒には、「宛先（受験者の住所・氏名）」を記入し、200円分（速達の場合は470円分）の切手を貼ってください。ただし、入学料と授業料の両方の免除申請書類を請求する場合には、切手が240円分（速達の場合は510円分）になります。

(2) 入学料免除・授業料免除申請書類請求期間

平成24年1月20日～

※入学料免除申請書類の提出締切は入学手続き日となるので、早めに請求してください。

◆窓口での申請書類配布

平成24年2月1日から学生課窓口でも配布します。できるだけ受験者本人が受け取るようお願いいたします。窓口では、受験生であることを申し出てください。

志願学部、受験者氏名、連絡先電話番号の記入及び入学料免除申請の場合は特別事情の有無の記入が必要です。

配布場所：次頁申請書類の請求先 ※配布日時等にご注意ください。

◆申請書類の請求先（免除制度に関するお問い合わせもこちらまで）

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 弘前大学学務部学生課 生活支援グループ
電話 0172-39-3117

平日のみ 9:00～17:00

ただし、平成24年2月24日、3月12日を除く。

※申請書類の窓口配布は文京地区の学生センターにある「学務部学生課」のみです。

※平成24年2月24日、3月12日は個別学力検査実施及びその準備のため係員不在となります。申請書類配布及び電話照会ともできませんので注意してください。

11 学生寮への入寮を希望される方へのお知らせ

入寮を希望する場合は、事前に「入寮希望調書」等を提出する必要があります。
以下の方法により必要書類を取り寄せ、期日までに提出してください。

〔1〕 必要書類の請求方法

① 郵送により請求する場合

- ・往信用封筒の表に「入寮案内請求」と朱書きしてください。
- ・往信用封筒の裏に「住所」、「氏名」、「性別」を記入してください。
- ・返信用封筒（長形3号、返信先住所・宛名記入、切手90円分貼付）を同封してください。

② 弘前大学ホームページから取得する場合

- ・所定の様式等をダウンロードしてください。

③ 入寮案内等の発送並びにダウンロード開始は、平成23年11月24日（木）からです。

〔2〕 資料の請求先（入寮に関するお問い合わせもこちらまで）

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 弘前大学学務部学生課学生支援グループ
電話 0172-39-3107・3115

〔3〕 入寮希望調書等の受付期間

平成23年12月1日（木）～平成23年12月16日（金）

12 合格しなかった場合の取扱い

推薦入試に合格しなかった者が、一般入試の受験を希望する場合は、「前期日程」から一つ、「後期日程」から一つの合計二つの国公立大学・学部に出願することができます。

出願にあたっては、各大学・学部等により大学入試センター試験の受験を要する教科・科目が異なる場合がありますので特に注意してください。

本学に出願する場合は、別途「平成24年度学生募集要項（一般入試）」（11月中旬配布開始予定）を取り寄せ、それにより所定の出願書類等を提出してください。

13 入試情報の開示

平成24年度入学試験実施結果を以下のように開示します。

	大学入試センター試験	個別学力検査	調査書
開示の対象となる成績情報等	大学入試センター試験の結果に関しては、選考で使用した傾斜配点後の得点を科目別に公表します。	個別学力検査結果に関しては、試験科目毎に得点を開示します。 なお、得点調整が行われた場合は調整後の点数で開示します。	「7. 指導上参考となる諸事項」「8. 総合的な学習の時間の内容・評価」「9. 備考」欄を除いた調査書を開示します。
申請・開示する場所	弘前大学学務部入試課	弘前大学学務部入試課	弘前大学学務部入試課 または 保健学研究科学務グループ (医学部保健学科のみ)
開示期間	平成24年5月1日から6月30日までの期間に土曜・日曜・祝日を除いて開示します。なお、開示時間は9:00~17:00までとします。		
開示方法	大学入試センター試験及び個別学力検査の点数については、窓口及び郵送で開示します。なお、調査書については、請求日の2日後以降に窓口閲覧のみの開示とします。		
申請に関して	1. 請求権者は受験者本人とします。 2. 開示の際には受験者本人であることの確認をさせていただきます。 受験者本人の確認は、弘前大学受験票により確認します。弘前大学受験票がない場合は開示できないので注意すること。 3. 郵送での申請方法は平成24年4月以降弘前大学ホームページにてお知らせします。		

14 個人情報の取扱いについて

1. 利用目的

志願者から提出いただきました個人情報は、入学者選抜のほか、次の範囲で利用させていただきます。

- ①入学者の学籍管理及び学生生活支援に関すること。

- ②入学者選抜の改善のための調査・研究に関すること。
- ③その他，教育・研究に関すること。

2. 第三者への提供

入学後の学生生活支援等のため，出願書類のうち「あて名票（弘前大学生協提出用）」を，本学と業務委託契約を締結している弘前大学生協へ提供します。

弘前大学生協では，これを利用して大学生生活案内・教科書教材（教科書販売・パソコン等）・アパート等の情報を掲載した資料を送付します。

この取扱いに同意する場合は，「あて名票（弘前大学生協提出用）」に住所・氏名等を記入し，出願書類と共に提出してください。提出いただけなかった方には当該資料は送付しません。

3. 国公立大学間の情報提供

分離分割方式による合格者及び追加合格者決定業務を円滑に行うため，合否判定及び入学手続等に関する個人情報（氏名及び大学入試センター試験受験番号）を大学入試センター及び併願先（国公立大学）へ提供します。

添 付 様 式〔推薦入試用〕

1	志願票 A・志願票 B	1枚
2	「振替払込受付証明書（大学提出用）」貼付台紙・受験票・写真票	1枚
3	推薦書（全学部共通）	1枚
4	志望理由書（人文学部〔推薦Ⅰ〕, 理工学部〔推薦Ⅱのみ〕）	1枚
5	払込取扱票・振替払込請求書兼受領証・振替払込受付証明書 （お客さま用）	1枚
6	受験票返送用封筒	1枚
7	合格通知用封筒	1枚
8	あて名票（弘前大学生協提出用）	1枚
9	出願用封筒	1枚

弘前までの交通案内

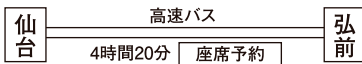
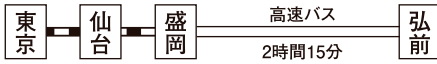
札幌・函館・青森から



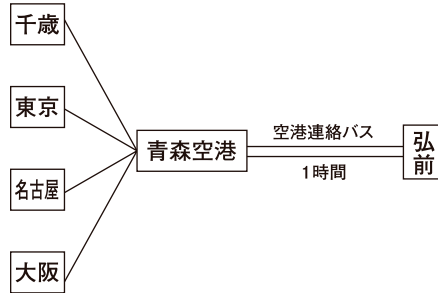
大阪・金沢・新潟・秋田から



東京・仙台・盛岡・八戸から

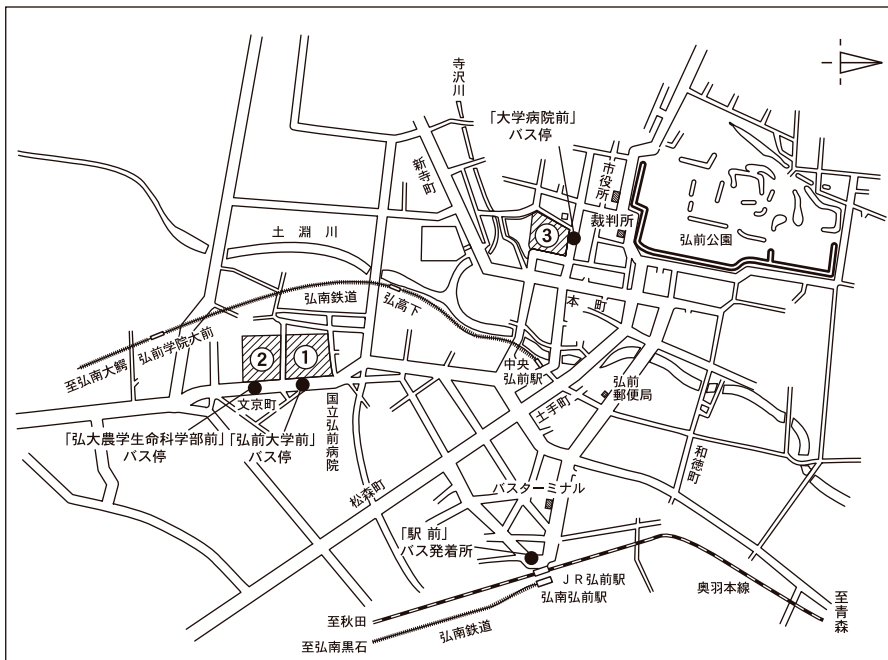


空路



試験場略図 (弘前市内)

- ① 総合教育棟試験場，教育学部試験場
- ② 理工学部試験場，農学生命科学部試験場
- ③ 医学部保健学科試験場



受験についての問い合わせ先

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
弘前大学 学務部 入試課
電話 0172(39)3122, 3123

弘前大学 入試情報
携帯電話サイト



<http://daigaku.jp/hirosaki-u/>